

伊賀市の文化財 138

国史跡

伊賀国分寺跡・
長楽山廃寺跡

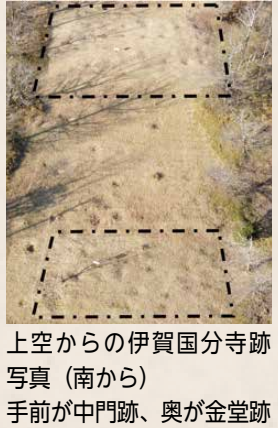
西明寺

天平15(743)年、聖武天皇は国内の政治・社会上の不安を払拭するため大仏造立の詔(命令)を発しました。また、あわせて僧寺・尼寺を全国に建てるよう国分寺建立の詔を発しました。それを受けて全国で国分寺・国分尼寺が建てられていきました。

この時建てられた伊賀国分寺は、坂之下や三田など柘植川北岸にあったと伝えられてきました。しかし、大正時代に郷土史家の佐々木彌四郎らが、研究の末に西明寺に伊賀国分寺・国分尼寺の2寺を発見しました。当時の現地測量では2寺にはそれぞれ金堂跡・講堂跡などの基壇(基礎)の高まりが残されていること、礎石(建物柱を支える石)の抜き取り痕があることがわかり、「当時の面影を



文化財課
22・9678
FAX 22・9667



上空からの伊賀国分寺跡
写真(南から)
手前が中門跡、奥が金堂跡

残す貴重な遺跡」として伊賀国分寺跡(国分僧寺跡)・長楽山廃寺跡(国分尼寺跡)は大正12(1923)年に国の史跡に指定されました。

伊賀国分寺跡はこれまでに、各建物の基壇の高まりや礎石の抜き取り痕の測量調査が実施され、その結果から南から中門跡、金堂跡、講堂跡が明確に残っていることがわかっていきます。また、経蔵・鐘楼跡、僧房・食堂跡も確認され、これらの東側には塔の基壇跡もあり、七堂伽藍を備えた他国と同規模の寺院であったと想定されています。

長楽山廃寺跡では部分的な測量調査により金堂跡・講堂跡の基壇の高まりや礎石の抜き取り痕などが確認されています。しかし、全体の伽藍配置については不明な点も残されています。

現在、伊賀国分寺跡・長楽山廃寺跡の間に位置する伊賀市斎苑の建替えにかかる発掘調査(現地調査は終了・出土遺物などの整理中)を実施中です。

明日に向かって ~差別をなくしていくために~

人権について考えるコラムです。

アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み、偏見) -上下水道部施設課-

私は今年度、人権大学講座を受講しました。正直なところ、受講するまでは自分は差別したこともされたこともないと思っていました。しかし、学習を深めるうちに、自分は知らず知らずにいろんな物事を偏った視点で見ていたのではないかと、相手の立場で考えていたかどうか、自分が考える「当たり前」や「普通」とは一体何を基準にしていたのかと考えるようになりました。

今回学んだ言葉で「アンコンシャス・バイアス」があります。意味は「無意識での思い込み」です。人権を改めて学ぶ中で、私はこの「アンコンシャス・バイアス」がさまざまな差別を生んでいるのではないかと考えるようになりました。

例えば、自動改札は、右利きの人を使いやすいように設計されていて左利きの人には使いにくいものになっています。また、段差のある道は車いすの人

が一人で利用することは困難です。しかし、それらに疑問を持たないと誰かが不便な思いをしていることが分かりません。私がこれまでこうしたことに気づけなかったのは、まさに「無意識での思い込み」があったからです。

今、社会には、LGBT 差別、障がい者差別、各種ハラスメント、ヘイトスピーチ、フェイクニュース、コロナ感染者に対する差別問題など、多くの人権課題があります。人によって身近な問題とそうでないものがあるかと思えます。その状態を疑問に思わないと、少数派(マイノリティ)を「そんな人もいるんだな」と思うだけで、そこに不公平や差別が潜んでいることに気づきません。差別を一つでも無くしていくために、自分自身の中に偏見や無意識に思い込んでいることがないか、これからも自問自答を繰り返していきたいと思えます。

上野総合市民病院だより

上野総合市民病院では、さまざまな部門があり、医師や看護師、その他の職種が連携し、チーム医療に取り組んでいます。このコーナーでは、各部門の活動を紹介します。

◆整形外科手術後のリハビリテーション

当院では、手術後の運動機能の回復を図り、日常生活動作が再びできるように早期リハビリテーションを行っています。

疾患や手術の特性に合わせたプログラムを行うとともに、さまざまな職種同士で協力し合い、それぞれの患者さんが抱えている問題を解決しながら進めることを大切にしています。

整形病棟では平日の朝に、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士、作業療法士、理学療法士らが集まり、新規の入院や手術前後の患者さんについての情報共有、病棟での可能な動作や運動の確認などを行っています。

ここで1つ、皆さんにお尋ねします。手術をした

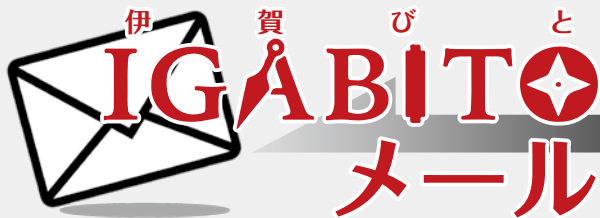


場合、何日目からリハビリを始めると思いますか？数日後？1週間後？——答えは手術の翌日です。整形病棟では、手術翌日から患者さんの体調をみながら動作能力の確認を行います。確認した内容はすぐに医師・看護師に報告し、病棟でできることが増えていくようにしています。

リハビリテーション課には、伊賀地域で1人しかいない運動器理学療法専門理学療法士が在籍しています。整形外科疾患や手術、術後管理方法などリハビリテーションに関連する内容について病棟看護師と勉強会を行い、患者さんに提供できる運動・動作練習、指導内容の向上に努めています。

当院で力を入れている脊椎手術や人工股関節・膝関節手術にも対応し、患者さんの早期の社会復帰を支援しています。

(上野総合市民病院 リハビリテーション課
理学療法士 田中 大介)



【問い合わせ】 総合政策課
☎ 22-9623 FAX 22-9672
✉ sougouseisaku@city.iga.lg.jp

今回は、上野高等学校の先生からコメントをいただきました。

「上野高校では、地域を支え、地域の発展に貢献する人間としての在り方・生き方を探究することを目標として、総合的な探究の時間に『みらい探究』と

称した探究活動を行っています。3年間で『確かな学力』『企画力』『発想力』『発信力』『協創力』が身につくような計画のもと、1年生では地域の魅力を知ること、次年度の地域課題解決策を提案する活動につながっています。

今年度はコロナ禍での活動でしたが、多くのグループが市役所の各課を訪問し、伊賀市の魅力や課題について現状を知りました。それらの情報を整理し、ポスターにまとめ、12月の最終発表会(ポスターセッション)にのぞみました。また、2年生も2月のみらいプロジェクト発表会に向けて、各グループが伊賀市から提示された空き家対策などの課題に対する解決策を検討し、プレゼンテーション(提案)資料の作成をすすめています。」



2年生/活動風景



1年生/市役所フィールドワークの様子



1年生/ポスター作成風景